

令和元年度 9月定例記者会見 会見録

日時 令和元年10月2日(水)午後2時00分～3時10分

場所 市役所2階第1特別会議室

(市長)

皆様、こんにちは。38日間続いてまいりました9月定例会議が、本日散会いたしました。本日もお忙しい中、定例記者会見にご参加いただきましたことを御礼申し上げます。

まず、千葉県におきまして台風第15号により被災されました皆様に対して、お見舞いを申し上げます。本市も対口支援として、9月14日から千葉県の鋸南町に災害対策本部業務と災害対応全般に係る支援を行うため、職員4名の派遣を始めとして、現在被災家屋の調査認定や罹災証明の発行、それから避難所運営などを含めて、本日まで延べ126名の職員を派遣しているほか、千葉市長の要請に基づきブルーシートなども被災地に送らせていただきました。

被災地の復旧、復興には、多くの時間を要することから、引き続き全力を上げて取り組みを進めてまいりたいと思っております。東日本大震災の際、私は当時国会議員でありましたが、前市長の「相模原市として大船渡市など被災地への災害支援を進めていきたい」という言葉を私自身も振り返りながら、今回の鋸南町への支援をしっかりと進めていきたいと思っております。現在でも岩手県、宮城県、福島県の被災三県を始め、東広島市や熊本市など、全国に本市の職員が派遣されておりますので、しっかりと現地で頑張ってください、また、相模原市に戻ってきてから被災地での経験を生かして、しっかりと災害に強いまちづくりのため、職員の皆さんにも頑張ってもらいたいと思っております。

次に、9月定例会議が、本日、散会いたしました。38日間の審議で、市議会の皆様からも貴重な意見をいただき、提案いたしました、すべての案件につきまして、議決いただきました。

議員の皆様からは、平成30年度決算に関する一般会計、特別会計決算に関する討論もございました。そういった意見をしっかりと踏まえながら、来年度の予算にも反映させたいと思っております。私にとっては初めての予算提案となった9月定例会議ではありますが、スタートアップ予算として位置づけさせていただきました。シビックプライドの醸成に向けた考え方やSDGsの推進、人権条例に係る検討予算、相模総合補給廠のスポーツ・レクリエーションゾーンに関する予算措置など、多岐にわたる様々な提案をさせていただきました。議員の皆様からも様々な角度でご意見をいただきました。そういった意見を参考に、そして、力にしながら取り組みを進めてまいりたいと思いません。今後も12月の市議会定例会議に向けて、そして、来年度の予算案に対しましても、本村カラーが出るよう、庁内での様々な意見交換をしっかりと踏まえてまいりますので、記者の皆様にもお気づきの点は、遠慮なくご提案ご提言いただきたいと思います。

続きまして、相模原市友好訪加団についてでございます。10月6日(日)から10日(木)までの3泊5日の行程で、本市の友好都市であるカナダのトロント市を、私を団長とする訪加団4名が訪問する予定です。トロント市におきましては、更なる友好関係の構築や、特にトロント市が力を入れている経済分野での交流も今後深めていきたいと思っており、今回はトロント市の副市長や経済開発局職員、JETROトロントや、オンタリオ州政府の方と面会をしてみたいと思います。また、東京オリンピック競技大会の事前キャンプを行っていただくカナダボート協会の会長にもお会いし、意見交換を進めてみたいと思います。本市といたしましては、パラリンピックの事前キャンプもカナダボートチームに行ってもらえないかと働きかけもしている関係から、事前キャンプの関係のお話をしたいと思っております。

また、本市とトロント市を繋ぐ役割を担っていただいている方々とも現地で親交を深めてみたいと思っており、私も初めて訪問させていただきますが、様々な方と対話をすることによって、相模原市とトロント市の友好関係を深めてみたいと思います。

続きまして、JAXA相模原キャンパス30周年の記念式典が11月1日でございます。既にご承知のとおり、小惑星探査機「はやぶさ2」が来年、2020年の帰還までの間、様々なミッションにチャレンジしてまいりました。この宇宙科学研究所は、皆様もご承知のとおり、平成元年に東京大学駒場キャンパスから本市に移転して以来、30年という月日が経ちました。小惑星探査機「はやぶさ」や「はやぶさ2」は、JAXA相模原キャンパスの皆様のご尽力により、本市のシティセールスにもご協力いただいております。本当に多くの皆様から注目をされています。JAXA相模原キャンパスの30周年を記念しまして、11月1日(金)に国立映画アーカイブ相模原分館、昔の近代フィルムセンターで、記念式典と30年を振り返った講演が行われると伺っております。今後もJAXAの多くの偉業が、本市から世界に発信されていくことに多いに期待を寄せていくほか、本市の多くの中小企業の皆様が、「はやぶさ」に関連した様々な部品の製造にも関わっており、宇宙産業の発展にも力をいれていきたいと思っております。我々と共に歩んできた30年間に対して感謝を申し上げますとともに、今後もさらにJAXA相模原キャンパスのご活躍を祈念してまいりたいと思っております。また、翌日2日(土)には、毎年恒例の特別公開も行われます。普段は見ることのできない、ロケットの組み立てを行う施設や、強度、動作などの試験を行う施設等の特別公開、各プロジェクトの紹介や、最新の宇宙科学の動向に関するセミナーの開催、衛星やロケットの模型展示が行われると伺っておりますので、ぜひ記者の皆様におかれましても取材をしていただければと思います。また、銀河連邦共和国の仲間である、北は北海道の大樹町から南は鹿児島県の肝付町まで本市を含む7つの共和国の物産展では、各地の美味しい食べ物も販売されるということなので、科学的な見地からも、皆様の舌も、楽しめるような時間になると思います。

続きまして、相模原スイーツフェスティバル2019についてでございます。お手元に資料が配布してありますが、今回で推し土産スイーツ総選挙として第3回を迎えます。私も市長に就任して5か月が経ちましたが、市民の皆様から市外に行くときに、どんなお土産を持っていくのが良いか、

よく聞かれます。また、国会議員の先輩方からも相模原のお土産について聞かれることがあるのですが、どんなお土産があるんだろうかと考えてしまいます。これから私たちも、観光と同時に、推し土産スイーツに関してもしっかり力を入れ、例えば長野県の小布施には栗があるように、相模原市といたらこれというものをつくっていきたいと思います。相模原市ですと津久井在来大豆できな粉が作れますから、津久井産の大豆から作ったきな粉で何か出来ないだろうか、例えば、お互いリニアの車両基地ができる岐阜県中津川市のもやはり栗が名産とのことですので、その栗と津久井産大豆をコラボして、リニアのお土産ができないかなど、いろいろな発想を持っていきたいと思っています。そうした中で、今回推し土産スイーツ総選挙が実施されております。これは、市内で販売されている菓子やパン類のうち、お勧めの賞品にパソコンやスマートフォンを使って投票いただくものです。投票は9月15日から10月14日まで、イベント公式ホームページにアクセスし、1日、1回投票が出来ますので、多くの皆様に参加いただきたい思います。投票するとその場で抽選に参加でき、当たるとスイーツのお買物券がもらえるというちょっとしたお楽しみも付いておりますので、ぜひ投票に参加していただきたいと思っております。投票結果は、11月15日にイベント公式ホームページで発表される予定であり、11月30日(土)には、アリオ橋本で、表彰式と販売会を開催いたします。また、10月14日まで、昨年の受賞品目の一部を横浜そごうにあります神奈川県のアテナショップ「かながわ屋」でも販売しておりますので、横浜に行く際には、ぜひお立ち寄りいただいて、昨年の受賞品目を味わっていただければなと思います。

続きまして、東京オリンピック・パラリンピックの選手村で活用される、さがみはら津久井産材の引渡し式についてでございます。こちら皆様のお手元に資料があると思いますが、本市では、選手村のビレッジプラザに利用する木材として、津久井産材のスギ材を提供しております。この記者会見が終わった午後3時30分から、市役所正面玄関前で、東京オリンピック・パラリンピック競技大会の組織委員会の方にもご出席いただき、木材の引き渡し式を行う予定であります。これまで2回にわたり津久井産材を既に運んでおりますが、明日3日が最終納品となっておりますので、本日、それを記念し引き渡し式を行います。皆様にはお忙しい中ですが、よろしければ取材をお願いしたいと思います。本市の津久井産材が、オリンピック・パラリンピックに貢献できることは非常に嬉しいことでありまして、神奈川県の水源地域である本市が、神奈川県飲料水として約6割の水を供給している地域から生まれたスギ材でありますので、今後、レガシーとしても、活用を考えていきたいと思っておりますので、ご注目いただきたいと思っております。

続きまして、囲碁の名人戦についてでございますが、こちらすでに各紙で取り上げられておりますように、囲碁の最年少記録を次々と塗り替えております、本市出身の19歳の芝野虎丸八段が、史上最年少での名人獲得に挑戦しております。ここまでの対戦成績を3勝1敗としておりまして、史上初の10代での名人獲得という快挙達成まで、あと1勝と迫ってまいりました。私が訪加中の10月7日・8日に熱海市で行われます対局に勝利すれば、名人の称号を獲得されるということで、10代初の名人獲得を応援していきたいと思っております。

私からは最後になりますが、市議会本会議でもご紹介させていただきましたが、10月1日付で鈴木 英之教育長が就任いたしました。今後、記者の皆様には、様々な場面でのお世話になると思います。鈴木新教育長におかれましては、こども・若者未来局の局長のほか、教育総務室長を務めるなど、これまで子育てや教育に深く関与してきたこともあり、教育長として非常に期待しているところでございます。教育でも、選ばれる相模原市になるように、前野村教育長の考え方を継承する部分は継承し、発展させる部分は、鈴木新教育長の元でまた新しいチャレンジをしていただきたいと思います。

私からは、以上でございます。

(記者)

衆議院議員総選挙が行われた場合、14区の後継について何か考えや動きなどについて、この場で語れることがあれば、教えていただけますか。

(市長)

市長という立場におりますので、後継者に関しては野党の立憲民主党をはじめとする皆様にお任せしております。ですから私としては、直接お話する立場にありません。与党野党ともに伯仲した形で、緊張が保てるような国政の環境であればいいという思いはありますが、これは民意で決まることであります。私の立場としては、次の総選挙では投票率を上げたいと思っております。今年の4月の統一地方選挙でも50%を割る投票率でした。過去直近の衆議院選挙でも2009年以降は、投票率が落ち込んでおり、厳しい結果となっております。ぜひ多くの市民の皆様にご投票に足を運んでいただきたいと思います。

(記者)

神奈川県で自転車の安全で適正な利用や保険の加入を義務付ける条例が今月施行されましたが、相模原市で既に同様の条例を導入しており、昨年からは保険加入の義務化されていますが、市ではどのような成果や課題があったのでしょうか。また、県の条例化をどう捉えていらっしゃるでしょうか。

(市長)

今議会でも代表質問にお答えしましたが、保険等の加入状況については、市政に関する世論調査において、自転車を所有している人のうち加入していると答えた人の割合は、平成28年度は38.7%、そして30年度は43.3%、本年度は速報値ではありますが53.8%と増加しており、条例制定において一定の成果がみられたものと考えております。また、神奈川県で条例が作られたという話については、非常に歓迎すべき話でないかと思っております。特に、本市は中央区と南区において自転車事故が非常に多く、今議会での一般質問で、高校生の自転車事故の割合などを含め質問をいただきましたが、私も最近、車で移動している時などに、イヤホンをして自転車に乗っている学生が目立ち、やはり自転車事故に対するマナーアップの啓発は必要だと思っております。ちょっと話

は違いますが、スマートフォンを見ながら歩いて人とぶつかってしまう事例もあり、先日、私が相模原駅前で街頭演説をしていた際も、歩きスマホをされている方と車いすに乗っている方との接触も見掛けました。市としては、そういった視点でもマナーアップを考えていかななくてはならないと思います。本市の中央区と南区は、神奈川県交通安全対策協議会から事故多発地域に指定されておりますので、2区を始め、緑区においても今後、自転車のマナーアップ啓発に関して、神奈川県とも連携できる場所は、連携しながら、取り組みを進めていきたいと思っております。

(記者)

清新小学校の冒険の森に駐車場を作る計画について、今後どのように進めていくのか市の方針をお聞かせください。

(市長)

既に何紙かに取り上げていただいておりますが、現在教育委員会で最終決定の方向に向けて調整中であり、決定後に改めて教育委員会から報告があると思っておりますので、しばらくお待ちいただきたいと思っております。

(記者)

最終調整というのは、工事を中止するのか続行するのか、どちらの方向で調整中なのでしょうか。

(市長)

小学校内に駐車場を整備するかどうかということですか。それも含めて最終決定を庁内・議会をはじめ、地域住民の皆様を含めて調整中でございますので、その方向が決定次第、教育委員会から報告させていただきます。

(記者)

いつ頃になるのでしょうか。

(市長)

まだ、いつになるかは分かりません。これまで清新公民館の大規模改修事業が実施されてきて、4月21日に新しい清新公民館がスタートしました。改修前の清新公民館の駐車場は10台分であり、公民館利用者から駐車場を増やして欲しいという要望が寄せられたこともあり、ほかの近隣公民館の駐車場台数を参考に、平成30年3月の議会で、清新公民館の大規模改修事業の予算が承認された時、駐車場増設工事は、建設工事の付帯工事として、公民館敷地内の14台分のほか清新小学校内の冒険の森の一部に10台の駐車場を整備する計画とされた経緯があります。その後、加山前市長時代の昨年8月に、冒険の森に駐車場を整備することに対する、様々な意見が寄せられたことから、駐車場の増設を前提とした再度の総合的な検証を実施するということになり、駐車場整備について一度立ち止まりました。その後、平成30年12月に、冒険の森に当初10台整備する予定であった駐車場が5台に変更され、公民館敷地と隣接する場所に3台分を整備する変更案をお示し、保護者など約85名に参加いただいた説明会の実施や、議会や自治会の掲示板、市のホームペ

ージなどで、これらの変更事項をご説明させていただきました。現在、最終的な決定に向け議論を深めているところであります。最終的な調整が出来ておりませんが、4月21日のリニューアル以降、駐車場の利用状況については、徐々に駐車台数が増えており、現行の駐車台数では不便をきたすという状況になっており、冒険の森での整備を続けるのか、それとも中止し、他の駐車場を確保するのか、最終的な判断を教育委員会で行っているところでございますので、決定次第、速やかに報告していきたいと思っております。

(記者)

閉店した伊勢丹相模原店なんですけど、その後、どのような施設になるのかという情報は、まだ入っていないのでしょうか。

(市長)

私が市長に就任する前から、この伊勢丹相模原店の閉店に関することや、シニア世代の皆様にとって重要な課題である公共交通の空白地域における公共交通網の整備などの要望を非常に多く聞いておりました。私にとっても市長選に立候補する1つの決断が伊勢丹相模原の閉店でした。このことに関しては、加山前市長にも様々な行動を促してきた経緯がありましたが、私が市長に就任して以降、6月4日、8月16日、9月23日と伊勢丹の関係者とお会いし、もし伊勢丹が他の方へ建物や土地を売却する場合でも、新しい所有者に対し、公共歩廊の確保をお願いするよう申し入れてきました。これまで相模大野のにぎわいと回遊性を維持してきた、1つの要素である伊勢丹が無くなってしまうということに、非常に危機感を感じておりました。9月23日は祝日でありましたが、伊勢丹本社に伺い、杉江社長と直接お会いし、杉江社長から優先交渉権者は野村不動産株式会社だということをお聞きしましたが、正式な交渉というのはまだ行っておらず、最終的に三越伊勢丹ホールディングスが野村不動産と正式な合意を結んだということも聞いておりません。正式に今後の方向性が決まり次第、三越伊勢丹ホールディングスだけでなく、新しい所有者に対しましても、私らがトップセールスを行い、相模大野駅北口を出て、コリドーを通り、季節の橋で県道跨いから、グリーンホールや図書館さらには相模大野中央公園へとつながる動線を、29年間にわたり伊勢丹のご厚意により無償で貸していただいた経緯もありますので、少し図々しい部分もあるかもしれませんが、まちのために、次の所有者にも同じお願いをしていきたいと思っております。なお、ご承知だと思いますが、9月30日の午後7時閉店後、伊勢丹相模原店内の通路が通れなくなったことにより、市営駐車場側に迂回路を設けました。迂回路は、照明の照度を上げることや、警備員を配置することで安全性を確保しております。万が一、伊勢丹が今の形で無くなり、解体し新しい建物が建てられるとなった場合でも、相模大野駅から相模大野中央公園までの通路は必ず確保し、商業施設や文化の核として、賑わいと回遊性が可能となるまちづくりを進めていかなければならないと思っておりますので、私らがお願いにあがっていきたく思っております。

(記者)

何らかの、新しい情報があればすぐに情報提供していただけるのでしょうか。

(市長)

そうですね、例えば現在の動線が使えなくなるという話があれば、市民の皆様には情報を発信しなければなりません、全てをフォローできるわけではありませんので、逆に記者の皆様のお力を借りし、広く市民に知っていただきたいと思っておりますので、その際は速やかに、お話ししたいと思います。

(記者)

民間同士の話だと思うのですが、そこに市が介在するというのは、どういう形で話を進めていくのでしょうか。

(市長)

先ほど、私も少し図々しいかもしれませんが、まちづくりのためにということ为先ほど触れました。確かに民間同士の話で、伊勢丹の土地も建物も三越伊勢丹ホールディングスの所有地・所有物であり、それが新しい民間の方に売却されれば、今度はすべて新たな方の所有となるので、例え、生活に必要な通路であり、賑わいや回遊性を確保してきた通路であったとしても、敷地や施設の中を通る通路の確保のお願いは、非常におこがましい話かもしれませんが、しかし、通路の確保が出来なくなると、相模大野のまちづくりに関しては、非常に危機的な状態だと思っております。私は伊勢丹相模原店の元店長さんや、杉江社長をはじめ、亀田執行役員に対しましても、万が一所有者が変わった場合でも、中の通路の確保だけは、必ず次の所有者に伊勢丹さんからもお話をしてもらえないかということ再三再四お願いしてまいりました。ご指摘のとおり民・民の話になりますので、行政がどこまで入っていけるのか分かりませんが、私自身は必ず中の通路は確保できると自負しております。最終的にどなたが所有者になるかは分かりませんが、新しい所有者の方にも、ここは市民にとって本当に大事な通路であるということを理解いただき、必ず死守していきたいと思っております。今後、伊勢丹の建物が解体をされ、新しい建物が建てられる際は、おそらく数年間、通路として利用できない期間が出てしまうので、そういった際の対応も、1階のバス乗り場を利用した迂回方法はないのか、2階に橋を渡す方法はないのかなど、バリアフリーの観点から考えても、なんとか市営駐車場の1階部分か2階部分から直接抜ける方策が取れないかということを行内で検討を指示しております。いずれにしてもご心配の点は十分踏まえて、これから対応していきたいと思っております。

(記者)

通路を確保する一番手っ取り早い方法は、区分所有かどういう形かは別にしても、通路を市で取得してはどうでしょうか。そういった考えはお持ちですか。

(市長)

現行の伊勢丹相模原の建物がそのまま残された場合、そういった考え方もあるかもしれませんが、現状では29年間、伊勢丹のご厚意によって中の自由通路が使えてきた訳ではありますが、今後でも

きることならば、購入せずに所有者にご理解いただき、自由通路の確保を目指していきたいと思っております。もちろん、建物と土地を買ってしまえば良いという意見や、そこに区役所を移転したらどうかなど、様々な意見もいただいております。他市では実際にデパートの跡地を購入し、市役所として使っている例もあると伺っております。しかし、土地の価格も高く、現状では購入するという予定はありません。

(記者)

建物全てを買うという意味ではなく、1階や2階を部分的に購入するなりしてはどうかということですが、いかがですか。

(市長)

そういった話も含め、現状では購入するつもりはなかったのですが、1つの意見として庁内でも議論していきたいと思えます。

(記者)

9月23日に市長が三越伊勢丹ホールディングスの社長と面会されたと思いますが、優先交渉権者が野村不動産だという話以外に、売却の結論を出す時期ですとか、そういったような話はなかったのでしょうか。

(市長)

残念ながら、野村不動産が優先交渉権者であるというお話を聞いた以外は、聞いておりません。私たちが三越伊勢丹ホールディングスの杉江社長には、私たちが正しい情報を得る前に、様々な憶測が飛び交っている状況は好ましくないため、スピーディーに正確性を持って情報を伝えてほしいと、正式に契約が結ばれた後には、速やかに報告をお願いしたいということをお話させていただきました。契約の時期なども杉江社長に聞いたのですが、なかなかお答えいただけませんでした。その他に、私の方からは、ぜひ相模大野に伊勢丹ブランドを残してもらえないかという提案をさせていただきました。市民の方からいただいた声として、例えばポーノにお得意様サロンなどを設置し、伊勢丹という看板を付けられないかという話や、現在の伊勢丹の場所にクイーンズ伊勢丹のような形で食料品を扱う売り場だけでも残せないかという話をさせていただきました。そういった形で、伊勢丹というブランドが残ることで、30年間にわたり、平成の時代に相模原市とともに成長してきた企業でありますので、ぜひそういった点も配慮いただきたいといったことをお話させていただきました。

(記者)

厚生労働省で病院の統廃合など、見直しを検討していることが報じられ、相模原市でも赤十字病院など該当する病院がありました。それについて市長からコメントがありますでしょうか。

(市長)

本市では、東芝林間病院と相模原赤十字病院の2カ所が対象として報じられ、神奈川県内では本

市の2病院を含め、10病院が対象ということでした。ただし、再編が確定しているものではなく、来年11月に行われる、県の設置する地域医療構想調整会議において、当該病院を含め、地域の医療関係者等により、その役割や機能に関して再検証が行われると伺っております。市としても、市民の皆様には不安を与えないよう検証状況を注視していきたいと思っております。2つの病院の近隣の皆様の中には、これまで地域医療を担ってきていただいた病院がなくなるのではないかと不安に思われる方もいらっしゃるようですので、そういったことがないようにしっかりと県と取り組みを進めていきたいと思っております。

(記者)

道志村のキャンプ場で女の子が行方不明になっていることで、昨日、相模原市内の道志ダムでも捜索が行われたと聞いたのですが。

(市長)

奥相模湖ですね。

(記者)

今のところ、捜索の協力要請はないと聞いていますが、何か動きがありましたら教えてください。

(市長)

道志村の村長とは8月にお会いした際に、国道413号の相模原市内の道幅が狭いことに関し、今後の整備について依頼を受けたことや、青根地域の皆様と道志村の皆様が、経済交流や文化交流含め交流されているというお話も伺いました。今後、一緒に国をはじめとする機関に、道路の要望等も行っていきたいと思いますという話もさせていただきました。今回の女児の行方不明については、道志村の村長ともお話をさせていただきましたが、要請があれば私どもも対応していきたいと思っております。お話をいただいたように、昨日は奥相模湖に潜って捜索を行ったという話も聞いております。1人の女児の命というのは、何よりも大切にしなければいけない話だと思っており、本市としても取組を検討していきたいと思っております。

(記者)

今回の道志村の事案が、仮に事件だとすると、相模原市のキャンプ場等でも子供たちの安全を確保する上での対策を強化するのでしょうか。それについて市長の見解を教えてください。

(市長)

本市にリニア中央新幹線の神奈川県駅が設置されるのは令和9年の予定であり、本市が誇りに思えることは、リニアが停車する駅から車で10分ほどのところで蛍が見られるという自然です。都市部から近いところに素晴らしいキャンプ施設が整っているというお話もいただきます。特に、本市の緑区にはキャンプ場が多くあり、今回の道志村での事案が事件ということであれば、市としても教育委員会をはじめ適切な対応を取っていかなければならないと思います。地域の見守りを始め、再検証が必要かと思っております。

(記者)

市としては、どのようなことが出来るのでしょうか。

(市長)

やはり、見守りではないでしょうか。既に通学路などでは、朝夕と見守りの方々がいらっしゃいますが、民間のキャンプ場に市がどこまで介入できるかという課題もございますので、それは今後検討材料だと思っております。

(記者)

相模原市の緑区にあるキャンプ場は、ほとんどが私設のキャンプ場ということになるのでしょうか。それとも市営になるのでしょうか。

(市長)

ほとんどが民営だと思います。

(記者)

例えば、民間の経営であっても、防犯カメラを設置する補助をするという制度など、そういう具体的な動きはありますか。

(市長)

防犯カメラに関しては、キャンプ場に限らず、地域の自治会からも非常に要望が多くあり、先般も黒岩県知事を訪ね、防犯カメラの補助の話もさせていただきました。キャンプ場に限らず、安全で安心な環境を作っていくために、防犯カメラを設置するという事は1つの手法だと思っておりますので、検討していきたいと思っております。

(記者)

明日から橋本地区で駅建設に関する説明会がJR東海により開催されるとのことですが、駅の建設について動き出したことについて、市長はどのように思われるかということと、完成予定年度に完成できるのか市長としてどのように見られていますか。

(市長)

明日から橋本駅周辺でリニア中央新幹線神奈川駅について、計6回の工事説明会が行われます。奥村組を始めとするJVの皆様が受注され、中間駅の中で一番早く工事が開始されます。6回の説明会が終わった後に、2027年3月31日までの工事がスタートする予定と伺っております。以前にもご質問がありましており、静岡県とJR東海の方で少し議論が深まっていない部分があるようでして、工事の遅れが心配されているところではありますが、本市の工事部分に関しては、順調に推移しているとJR東海からも伺っております。本市の工事箇所については、どこよりも早く進んでいくものと思っております。また、本市内では、駅舎とともに、関東車両基地を緑区鳥屋に作るという話がありますが、駅部分に関しては、順調に進んでいると思っております。また、山岳地帯のトンネル工事も既に始まっており、遅れはないと思っております。

(記者)

リニア中央新幹線神奈川県駅の用地取得は市が行っており、今年の3月時点での取得率は4割ほどだったと議会でも報告がありました。本線部分の区分所有権の交渉も市で行っていると思います。その進捗についても、間に合うという認識に変わりはないですか。

(市長)

JR東海と協定を締結して、用地取得事務については、現在本市で鋭意進めているところであります。駅部の用地取得率は40%と議会でも答えております。また、トンネル部は測量が終わってから順次補償説明を開始すると伺っておりますので、JR東海との協定期間が令和3年度末ということでございますので、最大限努力をしていきたいと思っております。

(記者)

40%というのは予定どおりということですか。

(市長)

はい、順調に進んでおります。

(記者)

リニアの駅の工事が始まりますが、相原高校のクスノキについて残すのか残さないか、どちらの判断をされるのか教えてください。

(森副市長)

クスノキのある部分の周辺は、当分の間、自転車置き場としても使われています。その一帯については工事ヤードから外した形で、今しばらくクスノキの今後の在り方も検討することも含めて、工事には影響のない形で継続していくことをJR東海、神奈川県、市との間で、話が付いているという状況となっております。このクスノキの今後の在り方に関しては、現在引き続き検討中ということになります。

(市長)

本市と神奈川県、民間の皆様が樹木医に診断をしてもらった結果がございます。この結果では、三者とも樹勢といいますが、木の勢いというのが年々衰えてきているという評価であり、その点を踏まえて、今後、神奈川県と本市、そしてクスノキの存続を求める民間団体の皆様を含めて、オープンに議論していくよう、都市建設局に話をしました。私は、多くの皆様が存続を望んでいることを承知しておりますので、やはり見える化で議論を進めていって欲しいと思っております。森副市長からもありましたように、JR東海の工事が始まった後も、クスノキが困いには入らないように区分をしていただいておりますので、今後も引き続き丁寧にそして皆様に理解いただけるような議論をしていきたいと思っております、しばらくお時間いただきたいと思っております。

(記者)

判断材料は揃ってきているようにも思われますが、今の議論で、クスノキを残すか残さないかの判断はいつごろを考えているんですか。

(市長)

時期はまだはっきりとは言えません。クスノキを残してほしいというお手紙もたくさんいただいております、その想いも非常に伝わってまいりました。ただ移植するには数千万円かかるのではないかとのお話もあるほか、移植しても樹勢が衰えているので、移植は難しいんじゃないかというお話もある一方、民間団体の皆様からは、移植すれば必ず生き続けるという話もいただいているので、様々な意見がある中で、最終的には県と本市とクスノキを守る会の皆様とオープンな場で議論していきたいと思っておりますが、それほど遅くならない段階では決めていきたいと思っております。

(記者)

オープンに議論するという事は、プロセスとして極めていいことだと思いますが、一番重要なのはやはりお金の問題であり、残すに値するだけの費用を市民が負担することが正しいのか正しくないのかというところに行きつくと思うのですが。例えば、市として残すのであれば、どの程度費用が掛かり難しいが、クラウドファンディングで資金を集めたらどうか等の選択肢は示されないのですか。

(市長)

ご指摘いただいた通り、移植にはかなりのお金がかかります。今、複数社に見積もりを取っており、移植にどの程度の費用が掛かるのか算定しています。会社によってまちまちですが、安くできるところもあれば、数千万円するという話もあります。そうして算出された費用を掛けたクスノキの移植が市民の皆様にご理解いただけるかという判断をしなければいけない訳であり、そのお金を県で出すのか、市で出すのかという判断もあります。一部ではクスノキを新しい橋本のまちづくりの象徴として橋本の地に残して欲しいという声もあれば、相原高校の新しい校舎に移すべきじゃないかという声もあります。クラウドファンディングの話もありましたが、そうした手法もあるのではないかと思いますので、今後適切に議論して、最終的には市民の皆様にご理解いただけるような結果を出さなければいけないと思っておりますので、その辺を踏まえ、進めていきたいと思っております。

(記者)

リニアの建設について、静岡県とJR東海で話がうまく進んでいません。相模原市の立場からすると、2027年に開通してもらいたいという気持ちが強いのと思いますが、現在の静岡県とJR東海のやり取りについて、市長はどのような見解を持っていらっしゃいますか。

(市長)

静岡県の川勝知事のお立場は、静岡の長い歴史の中での水利権の話を持ち出されており、その立場もよく理解できます。しかし、私どもは令和9年という目標に立ってまちづくりもこれから進めていかなければいけない、そして神奈川駅建設に伴い、多くの皆様に、移転のお願いや、様々なご苦勞をかけてきていますので、令和9年の供用開始というのは必須だと思っております。本市

においても、地下水を使ってクリーニングをされている方もいらっしゃるなど、旧津久井4町でリニアの建設に慎重な方々には、水の話をする方が非常に多くいますので、静岡の話も他人事じゃないと思っております。どこでこの方向性が決着するのかは分かりませんが、私たちの立場で、言えることは、令和9年の供用開始に向けて、静岡県にもご理解と、万が一水位に影響が出る場合は、JR東海がどの程度の補償が出来るのかということをしっかりお示ししていただくべきだと思います。

(記者)

補償の話は、JR東海に対してですか。

(市長)

はい。その件は相模原市にも関わる問題ですので。

(記者)

市が行っているリニア建設に関わる用地買収は、令和3年度末で終了するということですか。

(森副市長)

相模原以東の用地については、県との協定の中で、令和3年度末を協定期間とした中で、相模原市が担任しているということでございます。その中での進捗状況は、さきほど市長からも話があったとおり、用地の取得率で40%、ただこれは契約が成立したのが40%ということで、現在交渉中のものについてはそれを上回る数字の部分がありますので、令和3年度末までの期間に向けて、鋭意努力中ということになってます。

(記者)

それは達成されなかった場合には、市はその後の取得を行わないということですか。

(市長)

令和3年度までに達成の目標を目指してまいりますが、万が一出来なかった場合は、出来ないという段階での東海との協議になってくると思いますので、それは私たちも協力を惜しまずに続けていかなければいけないと思っております。

(森副市長)

JR東海から、仮にそのような事態になった時に、どういう条件で神奈川県あるいは相模原市に対して、申し出があるかというのは、まだ未確定な部分がありますので、その状況に応じてということになると思います。

(記者)

令和3年までの用地取得が出来なかったら、令和9年の工事完成というのも難しいのではないですか。

(森副市長)

工事部分と工事の進捗状況に合わせてということになりますので、用地取得が出来ていないところが、どういう場所によるかによっても変わってくる話だと思いますので、そこはその際に調整と

ということでご理解いただければと思います。

(記者)

土地の所有権が取得出来なければ、工事も完成できないと思います。令和9年開通を目指し、強引に進める訳にもいかないと思いますが。

(市長)

本市に関わらず、そこは解決しなければならない課題です。品川から名古屋までの間、特に岐阜県の中津川市と本市においては、車両基地もあわせて整備しなければなりません。車両基地が出来なければ供用開始も出来ませんから、私は駅舎部分も重要と思っておりますが、車両基地が出来ないと、令和9年間に合わないじゃないかという心配もあるかと思っています。

以 上